

◆ 効果的な獣害対策の検討

会津森林管理署（福島県）、日光森林管理署（栃木県）、利根沼田森林管理署（群馬県）
埼玉森林管理事務所（埼玉県）、静岡森林管理署（静岡県）

① 獣害の調査及び効果的な対策の検討

（会津森林管理署：福島県 日光森林管理署：栃木県 利根沼田森林管理署：群馬県
埼玉森林管理事務所：埼玉県）

【取組概要】

剥皮、食害等の獣害発生状況等を調査、把握し、被害の軽減を目指すとともに対策を検討する。

【取組状況】

会津署での取組 対策動物：クマ
＜調査結果等＞

- スギ人工林約30haの被害対策箇所を調査
 - ・ 区域内のスギ（小径木、被害木等を除く）にテープによる対策を実施し、その効果をテープによる対策調査した結果、被害本数は1本/ha未満であった。
 - ・ 被害木の状況は、根元から高さ30cm程の樹皮が剥がされ、その後上部に向かって剥皮される傾向。
 - ・ 対策後、被害を受けた木は胸高直径が概ね20cm以上であった。

○被害対策未実施箇所の被害傾向

- ・ 沢から斜面中腹までが被害を受けやすい。
- ・ 木が隣接している場合、胸高直径の大きい物が被害を受けやすい。
- ・ 広葉樹に隣接した、人工林の林縁等の日だまりでは、胸高直径の大小にかかわらず被害を受けやすい。
- ・ クマが、傾斜地の木を剥皮等をする場合は、斜面上方から加害している。

日光署での取組 対策動物：クマ
＜調査結果等＞

- H21年から継続している「野生鳥獣との共生に向けた生息環境等整備モデル事業」を活用した調査。
 - ・ 対象区域271haにおける被害状況を調査。区域内に、3種類の被害対策を実施した、1haの試験区を6ヶ所設置。また、区域内に自動撮影カメラを設置し、クマの進入状況を調査。

- H22年10月、日光市において、関係機関と意見交換会を開催。県、市、学識関係者、林業事業者、局・署職員の、計38名が参加。

- ・ 宇都宮大学考案の、新たな被害防止対策資材を紹介。
- ・ 12月、上記の防止対策を実施した試験区1haを追加設定。

- H23年1月、剥皮被害を受けて、変色・腐朽した丸太約60m³を試験的に販売。
 - ・ 心材部は一般用材として、パルプ材の一部は合板用材として販売。
 - ・ 一般販売木の製材状況の調査と合板用材としての試験販売結果の聞き取りを実施。



剥皮被害の様子



テープによる対策



大学考案の資材を設置

利根沼田署での取組 対策動物：クマ、シカ
＜調査結果等＞

○H22年度獣害対策状況

- ・ クマ対策： 防除資材 145ha
- ・ シカ対策： 防除資材 44ha
忌避剤散布 44ha
シカ柵 1,800m
- ・ 対策実施箇所での被害はほとんど見られない。
- ・ 防除資材、シカ柵に破損・脱落等の発生が今後の課題。定期的な巡視、防除材メーカーへの品質改善の提言を実施。



防除資材

- H22年度の被害状況調査を実施したところ、新たな被害発生の報告は無かった。
- 剥皮被害の著しい箇所において枯損木等を処理。一部を製品資材として販売を実施。
- H22年度11月、群馬県出先機関と現地研修会を開催。地元市町村、森林組合等約30名が参加し、被害状況と対策等について情報を提供。



対策箇所での被害の様子

埼玉所での取組 対策動物：シカ
＜調査結果等＞

- H22年5月、20×20mのプロットを4カ所設定。区域内の全木の形状等を調査。
NPO法人秩父の環境を考える会、環境省奥多摩自然保護官事務所と緑の回廊における獣害保護ネット設置の打合せを実施。
- H22年8月、笠取山北面において、ボランティアを含む総勢25名で125枚の保護ネットを設置。ニホンジカ共同捕獲打合せ会議に出席。
- H22年9月、関東山地の特別天然記念物カモシカ保護対策事業通常調査に出席。
- H22年11月、東京大学秩父演習林、埼玉県秩父環境管理事務所と合同により、プロット内の植生の同定調査を実施。新しい材質の保護ネットをあわせて設置した。



保護ネットの設置の様子



同定調査の様子

【今後の予定】

- ・ H23年度においても、継続して獣害保護ネットの設置・補修を実施。
- ・ 設定した対象区域、プロット等引き続き調査を実施。
- ・ 被害対策箇所についても、各々の対策効果を調査・取りまとめを行い、より効果的な策を各地で検討。
- ・ 地元関係機関との情報交換、提供も継続。
- ・ 被害木の試験販売を継続していき、資材に応じた利用手法も検討。（日光署）

② ニホンジカ被害対策の実践事例集の作成（静岡森林管理署：静岡県）

【取組概要】

ニホンジカによる森林被害が増加していることから、各種のシカ被害対策について、その特色、実施事例等をイラストや写真を交えて分かり易く整理し、今後のシカ被害の軽減及び技術の普及に資する。

【取組状況】

＜実践事例集の内容＞

シカ被害対策の各種対策品について、事例・実態の整理を行い、年度内に活用を進める。

○紹介資材

- | | | | |
|----------|--------|----------|------------|
| ・くわんたい | ・ラクトロン | ・ヘキサチューブ | ・緑化テープ(麻製) |
| ・リンロンテープ | ・エコディア | ・バークガード | ・ワイルド |
| ・金網フェンス | | | |

○記述項目

- | | | | |
|---------------|---------|------|-----|
| ・設置写真 | ・カタログ特徴 | ・実践例 | ・規格 |
| ・事例（改善が必要な点等） | | | |



【今後の予定】

H22年度に「暫定版」を作成したところであり、今後、事例や内容を拡充した「最終版」を作成・配布することにより、ニホンジカ被害対策技術の普及、民・国連携した効果的なシカ被害対策への活用を図っていく。